

C4Cだより

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン
 〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-45-1-302
 TEL:06-6622-5645 / FAX:06-6621-7139
 メール:community_4_children@yahoo.co.jp
 HP:http://www.community4children.com/

C4C団体ロゴがリニューアルします！



この度、8年目にして、C4Cの団体ロゴが新しく生まれ変わりました！制作して下さったのは、2016年8月に各国の子どもたちが集って行った「C4C青少年キャンプinタイ」に日本から参加したEさん。複数のデザインを提案して下さり、こちらに決定しました。

子どもの笑顔が自然をイメージした緑色で包み込まれており、各花は、タイ・フィリピン・日本・カンボジアの国旗の色になっています。C4Cの理念がそのままロゴになったようなデザインです。今後は、こちらのロゴに随時変更していきますので、よろしくお願いします！

I Do Cafe Vol.16を開催しました！

7月20日(土)、大阪府社会福祉指導センターにて、I Do Cafe Vol.16「遊んで作って、まなぼうさい(防災)！」を開催しました。

今回は、京都府長岡京市のフセマルプラットホームより事務局長の田川雅規さんと子ども×防災チームの東直美さん、宮城県からHuman Being代表(C4C宮城事業担当)の菅原清香さんの3名をゲストにお招きし、21名の方にご参加いただきました。

第一部は、各地域での実践事例を紹介いただきました！

幅広い市民層に響きやすい「4つのテーマ(子ども・家庭・車いす・ペット)」と「防災」を掛け合わせたフセマルプラットホームの



取り組みと、つくって楽しい・ふだんから使える・防災力が自然と身につく「ぼうさいグッズ手作りキット」を作成されたHuman Beingの取り組みを聞かせていただきました。

第二部では、子どもから大人まで楽しめる防災ゲームや手作り体験会を行いました！



フセマルプラットホームで開発された防災ボードゲーム「クツはいた!!」とHuman Beingが作成された防災手作りキット「パラコードブレスレット」を実際に体験しました。

とっても賑やかな体験会となりました！



「この防災グッズは要るかな?」、「この編み方で合ってる?」など、各テーブルでは楽しそうな参加者の声が広がっていました。



Cafeのお代として参加者の皆さんから“ひらめき”をいただきました♪

- ★防災×〇〇の発想が面白い！
- ★防災とは誰かを思う気持ち
- ★「防災」みんなで考えると楽しい♪につながる!!
見て、さわって、感じる、体験をつくっていきいたい
- ★「楽しい!!」は子どもも大人も笑顔になる
楽しく学ぶ・興味がわくことが自然に防災力が身についていく「きっかけ」、「ポイント」



今年も開催しました！ タイのコミュニティ事業から学ぶツアー



8月8日~13日まで、タイ事業・体験プログラム「地域を愛する子どもを育てるノンメック村で“コミュニティワーク”を学ぶ！」を開催しました。

宮城県や関西、コンケン大学で学ぶ日本人 留学生を含む10代から60代までの幅広い年齢層の9名が参加しました。

植林、有機農業実験農場での田植え、草木染、池の水を浄化するEMボール作り、地元料理のカオプン(そうめん)作り、村の青少年の奨学金や就労支援のための牛銀行の運営

見学など、盛りだくさんのホームステイ4泊でした。多くの村人も参加し、楽しい時間をともに過ごすことができました。

夜は、タイ人フィールドワーカーに現場での働き方、コミュニケーションや繋がりの作り方などを聞く機会もあり、参加者にとって密度の濃い時間となりました。

有機農業実験農場での田植えは、毎年参加する村人が増え今年は総勢60人にのぼり、有機農業に関心を持つ人も増えてきました。毎年、日本からの参加者が刺激や新たなきっかけになっているようです。

参加者の皆さん、ありがとうございました。また来年もやりますよ~!!



タイとカンボジアの交流 ~農業編~ 隣人から学ぼう！

8月10日~15日にかけて、カンボジア人スタッフや農民のための有機農業研修をタイで行いました。4回目となる今回は、カンボジア人農民2名、副郡長1名、スタッフ2名が参加しました。

C4Cが応援するカンボジアのプレックチュレイ地区では、有機農業実践者や生産物がなかなか増えません。年に6ヶ月水没してしまう地域の特性もあり、農民たちは農閑期には出稼ぎ以外に何もすることがなく、農繁期には化学肥料や農薬を大量投入した農業を行っています。

研修期間中は、ツアー参加者の日本人や村の人たちとともに田植えや草木染・藍染などにも取り組みました。また、隣のカラシン県を訪れ、病院が取り組む有機農業生産物マーケット、UターンやIターンした若者による有機農業実践農場と生産物の加工現場、マーケット開拓の様子などを視察しました。

カンボジア人たちは、植生が似つつも、様々な面で異なるタイの農業や農をめぐる社会的背景、高学歴の若者の農業という選択に驚きつつも積極的に研修に参加しました。特に、農閑期の仕事として期待できる草木染に高い関心を寄せていました。これからもタイとカンボジア間の農民交流は継続していきます。



参加したカンボジア人たちの声

- 帰国後は、土地の利用の仕方を変えてたくさん植え、自分のことから変えたい。それを見た村の人々も変わっていくかもしれない。妻が出稼ぎに行き、一人で農業をしなければならなくなるので、タイの『結』をしてみたい。ここで得たことは必ず自分の村で生かし、自分の家族の健康を守ることを実践したい。
- ここに来られてとてもうれしい。村には、ごみが落ちておらずとても清潔であると感じた。ここの人は団結心、お互いに対する愛情があると感じた。
- タイで得た経験をカンボジアで生かし、収入につないでいくことが大切。やれることはたくさんある。まずは、試しにやってみて、問題があれば、話し合っ解決していく。

代表の つぶやき

会員やご寄付をいただいている皆さんへ、本会が行っている活動をタイムリーにお届けするC4Cだよりを発行することになりました。

これまでC4Cの活動を知っていただく発信ツールはホームページとフェイスブック中心でしたが、紙媒体で情報をお届けすることで本会の活動をより身近かに感じていただいたいと考えました。是非、ご一読いただければうれしいです。

さて、ラグビーワールドカップがいよいよ日本を舞台に始まりました。一つの楯円級のボールを次々とまわし、奪い合いゴールへと一丸となって向かう姿を、私たちの活動と重ねて観戦していきます。

地域の子どもたち若者の健全な育ちを地域の大人たちが知恵を出し、力を貸し、取り組み姿勢は、ラグビーの精神「ひとりではなくのために、みんなは一つのこのために」によく似ていると思います。タイの有機農場の田んぼには、田植えや稲刈りに大勢の村人が集います。このような活動を今後も大切にしていきたいと思えます。